

特別支援教育だより

No2

さくら市立氏家小学校
令和5年10月24日

吃音（どもり）とは？



「あ・あ・あ・ありがとう。」「あーりがとう」などのようになめらかに話せないことを吃音（どもり）と言います。

お子さんにこのような吃音の症状が出ると、自分の子育てが悪かったから出たのかと心配する保護者の方がいますが、そうではありません。なぜ吃音が出るのかは分からないそうです。

緊張したときに出る時もありますが、リラックスしている時に出ることもあります。

吃音（どもり）は治らないの？



症状が顕著に出るときと出なくなる時があつて、「治ったのかな。」と思っていると、また症状が出る場合があります。どんなに吃音が重くなつても、話す意欲を失わなければ、吃音は軽くなるそうです。

それでも、心配でしたら、ことばの教室の担当者やスクールカウンセラーにご相談ください。

心配なのは、吃音のあるお子さんが、自己肯定感を低下させ、話をしなくなってしまうことです。そのためには、周りの友達や大人たちが適切な対応をすることが大切です。

家族としてどんなことをしたらいい？

★しないこと

- ・ 話し方のアドバイスをしない。
（ゆっくり話して。深呼吸して。落ち着いてなど）
- ・ 言葉の先取りをしない。

★すること

- ・ 子どもが最後まで話せる場面を作る。（難しければ、言葉を拾う。）
- ・ 聞き上手になる。（交代交代に話す。オウム返しなど）
- ・ 子どもが「褒められている」と思うような言葉を投げかける。
（「お手伝いしてくれてありがとう。」「がんばっているね。」など）
- ・ 友達に「どうして言葉がつかえるの？」と言われて不安に思っていたら、自分で言い返す言葉を一緒に考える。つかえるのは悪いことでないことも伝える。



友達も理解してあげよう！

吃音は悪いことではありません。話し方の癖のようなものです。

周りの友達は、吃音のあるお子さんが辛い思いをしないようその子の話し方のまねをしたりばかにしたりしないようにしましょう。

学校でも指導しますが、ご家庭でも話し合ってみてください。

